



つなげよう！お題目のタスキ

慈<sup>じ</sup>  
眼<sup>げん</sup>

第29号

発行所  
佐賀市西田代1丁目4-6 本行寺内  
TEL 0952-24-1813  
FAX 0952-24-1813

日蓮宗佐賀  
教化センター

発行責任者  
松野 邦俊

昨年十月十四日、小城・三日月地区檀信徒研修道場・護法の集いが、『つなげよう！お題目のタスキ』をテーマに、小城町光勝寺にて開催されました。佐賀県内を四地区に分けて始まった地区別の檀信徒研修道場も、前回の佐賀地区に続き第三回目となります。三十二の地区寺院が一年前から話し合いを重ね、僧侶・寺庭婦人・檀信徒合わせて、二百名を越す参加となりました。

友永正淳実行委員長（妙厳寺住職）より参加の檀信徒の皆様へ、「親から子へ、子から孫へお



題目のタスキをつないでください」との挨拶があり開式。

和讃奉納後、法要に入り参加の子ども達がご本尊へ献灯・献香・献花を行いました。更に武藤亮平君・杉野綾香さんが「七百年以上伝えられた教えを守り、伝えることをお釈迦様・日蓮聖人にお誓いします」と力強く宣言しました。

法要後、田中英康師（光旭寺住職）より法話が行われた。師僧より教えていただいたと云うご先祖様の数をユーモア溢れる口調で説明、いかに私達の命が貴重で有難いものなのか、



そしてその命を全うするためにはお題目をお唱えすることが大事である。参加の子ども達に分かるようにとのお話でした。

今回の大会は子ども達の参加が多く、ほのほのとした雰囲気が溢れる大会でした。今回参加した子ども達が本当にタスキを受け取るかどうか。「つなげよう！お題目のタスキ」のテーマは今日で終わりではなく、永遠のテーマであります。

次回は、杵藤・伊万里・有田地区にて行われ、十月十九日・武雄市円満寺にて開催予定です。

【特集】

《清正公様》

「せいしよこさん」として親しまれ、人々の信仰篤い  
加藤 清正公をご紹介します。



清正公様

加藤清正公は、安土桃山時代に活躍した武将です。『せいしよこさん』として、在世から現在に至るまで庶民に愛され、親しまれています。また、熱心な日蓮宗信者としても知られており、現在多くの日蓮宗寺院に守護神として勧請され、人々の信仰を集めています。

清正公は一五六二年、尾張の土豪である加藤清忠の子として尾張国愛知郡中村

(現在の愛知県名古屋)に生まれまし  
た。血縁関係にあった豊臣秀吉に仕え、肥後北部の領主となります。肥後入国の際、かつて大阪に創建した本妙寺を熊本城内に移建し、以降日蓮宗を手厚く外護します。このため領内に相次いで日蓮宗寺院が建立され、本妙寺を中心に西九州における日蓮教団の教線は飛躍的に拡大しました。秀吉没後は徳川氏の家臣となり、関ヶ原の戦いで武功を挙げて肥後一國を与えられ、初代熊本藩主となりました。数々の武勇伝を持つ清正公ですが、なかでも賤ヶ岳七本槍の一人としての戦功、朝鮮の役での活躍、および虎殺しの逸話などが有名です。  
朝鮮出征に先立ち、帰依僧である京都本圀寺の日禪上人に法華經一萬部誦誦会を依頼し戦勝の祈願を行いました。文禄の役には秀吉に授与された南無妙法蓮華經の題目旗をひるがえして戦場を駆け巡ったと言われています。本妙寺第三世日遙、小湊誕生寺十八世日延は、清正公が朝鮮から連れ帰り養育した人物です。  
清正公は築城の名手でもあり、特に大きな反りを持たせた独特の石垣の積み方

が知られています。日本三大名城に数えられる熊本城を築き、朝鮮出兵の際現地に築城した蔚山倭城、江戸城、名古屋城など数々の城の築城に携わりました。  
また、領内の治水事業にも力を注ぎ、熊本県内には現在も清正公による遺構が多く存在します。特に、清正公が熊本へ赴任した当初、領内の河川が年中氾濫を起こし、水害が深刻でした。  
藩主となった清正公は、この水害を除くための大々的な治水工事に取り組み、暴れ川の鎮圧にあたります。領民達にきちんと給金を払い、必要以上の労役を課すことなく、農事に割く時間を確保するなどの配慮のため、領民たちも男女の別なく事業によく協力したといわれています。  
加藤清正といえ、どうしても剛の武者という印象が強いのですが、このように実際は卓越した行政手腕も持ち、まさに戦国時代を代表する智勇兼備の名将だったといえるでしょう。  
慶長十六年(一六一一年)三月、二条城における家康と豊臣秀頼との会見を取り持った後、帰国途中の船内で発病し、六月二十四日に熊本で死去。享年五十歳。  
清正公の没後、清正公に対する崇敬と熊本における庶民信仰としての御霊信仰が結びつき、治病除災の神として清正公信仰が興り、それが全国に波及し、今日に至ります。

技術本位 **佐賀の老舗** 信用本位

辻の堂の仏だんや

**(株)本庄仏具総本店**

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社

**草苑** (SOU-EN)

佐賀市兵庫町藤ノ木1115  
北佐賀草苑 (0952) **30-4040**  
FAX・30-4043

佐賀市本庄町大字本庄951  
南佐賀草苑本庄 (0952) **25-1255**  
FAX・25-1088

# 『この経は甚深微妙にして諸経の中の宝、世に希有なる所なり』 妙法蓮華経提婆達多品第十二

皆さんが今まで生きてこられて『生きるとは？』『人間やその人生とは？』ということについて、考えられたことがあるという方がほとんどだと思います。ですが、その答えはなかなか見つけにくいものです。

日蓮聖人のお言葉に「人身受けがたし、仏法にはあいがたし」というのがあります。よくよく考えれば、牛馬や鳥や象や虫ではなく、私たちが人の身として生まれたことを不思議に思うことがあります。その生まれがたい人の身に生まれたから、ただちに私たちは「人間」になったというわけではありません。「人間」としての心や生き方を持つことによって、はじめて人は「人間」になれるのです。

人はなぜ生まれてきたのでしょうか。それはなぜ生まれてきたのかを知るためです。命の尊さ、出会いの大切さ、苦しみや喜びや恐れや感謝や善悪を知り、真実とは何かを探求するためです。

本来私たちは「生きとし生ける者を哀れみ、助け合うため」に人間に生まれてきたのではないのでしょうか？その真実の生き方を示されたのが仏法であり、法華

経なのです。法華経によって他を大切に  
する生き方を学んだ人は、生甲斐を持ち、  
他から尊敬され、明るい人生を歩むこと  
ができるでしょう。

あらゆる生物の中から人間に生まれ、  
たまたま仏法に会うことはむずかしいこ  
とです。たとえ仏法に会えても、この上  
なく深い教えの法華経に出会うことは  
もつとむずかしいことです。

それは「この経は甚深微妙にして諸経  
の中の宝、世に希有なる所なり」（法華  
経提婆達多品）といわれているほど、  
めつたに会えない、尊く珍しい宝珠、そ  
れが法華経だからです。

私達は今人間に生まれ、法華経に出会  
い、お経の文字を見聞きして、真実の教  
えを受けたもつことができました。お釈  
迦様が私達を救おうとされているお心に  
ふれ、その姿や声を見聞きすることがで  
きたのです。もし、尊い生き方の教えは  
仏法『法華経』を知らないで人生を終えて  
しまふならば、もつたいたいと思います。

法華経に出会った「ありがたさ」をか  
みしめながら、「どうかお釈迦様の説か  
れた第一のすぐれた教えを信じ習いきわ

めることができますように」（開経偈の  
意味）と心から誓願を立て、法華経の正  
しい教えを理解していくことが大切です。  
日蓮聖人は、「仏の御意あらわれて法  
華経の文字となり、文字は変じてまた仏  
の御意となる。だから法華経を読む人は  
単なる文字と思つてはならない。そのま  
ま仏の御意と思わなければいけない」と  
述べられています。

法華経の功德は平等です。法華経は平  
等に救う教えなのです。知恵のある者も、  
ない者もわけへだてはありません。これ  
までおかしてきたあらゆる罪をなくし、  
善い心をおこさせます。また、その心の  
持ち方一つで、幸せにも・不幸せにも感  
ずることができます。何事にも感謝して  
暮らしていけば、人生は明るくなり、人  
もまたたくさん集まって来るでしょう。

法華経を信じる者も、また法華経をそ  
しる者も、この法華経の限りない功德に  
包まれることによって、ともに仏に成る  
道をなすとげることができるようです。

過去・現在・未来その三世にあらわれ  
たもろもろの仏様は、いずれも法華経を  
悟つて仏に成られました。日蓮聖人は  
「法華経は釈尊の父母、諸仏の眼目なり」  
といわれました。一切の仏を生み出した  
深い教えが法華経です。法華経に出会え  
た喜びを忘れることなく、法華経を読み、  
御題目を唱えて信仰していきましよう。

平成19年度・創業84年目、仏壇・仏具  
・墓石の総合プラザ

## 光 古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521  
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564

- ・寺院用具一式
- ・登高座
- ・仏壇
- ・帷物
- ・前修
- ・天蓋
- ・宗教画
- ・その他
- ・卓復
- ・美術彫刻品
- ・神職用具
- ・仏像彫刻
- ・金須弥
- ・物壇
- ・宮経
- ・仏壇
- ・瑠璃
- ・漆

殿  
機  
具  
瑠  
璃  
者

手を合わせるころを大切に・・・

**山本仏具**  
佐賀市呉服元町10-12 23-4308  
〒840-0824 ☎(0952)



宗門運動  
「立正安国」  
お題目結縁  
発願大会」開催



総本山身延山久遠寺に昨年九月十、十一日、日蓮宗管長酒井日慈猥下（大本山池上本門寺貫首）をはじめ各本山貫首など、全国から約四百人の宗門関係者が結集し「立正安国・お題目結縁発願大会」が開催されました。佐賀県からは宗務所長、檀信徒協議会長など五名が出席。

昨年四月から実施した「立正安国・お題目結縁運動」は、「敬いの中で安穩な社会づくり、人づくり」を目標に掲げ、檀信徒を担い手の主体とする宗門運動です。その実現に向け、日蓮宗僧侶、檀信徒の「誓いの結集」とするべく、この発

願大会が開かれました。

大本堂で営まれた法要は、宗門運動本部長である小松浄慎宗務総長が、発願文の中で「立正安国・お題目結縁運動」は、但行礼拝を社会運動の基幹となし、立正安国の精神を体現し、国の内外にわたりて広くお題目結縁の輪を及ぼさんとする菩薩の浄業なり。別而、宗内に於いては、宗門再生と次代を担う全宗門人が意識覚醒を図らんとす。是の如き宗門運動の宗旨徹底によりて、祖願たる立正安国の大願を継承しお題目結縁の本誓を顕現せん」と運動推進への決意を力強く宣言されました。佐賀県でも各地区単位で檀信徒研修道場が始まるなど、新しい取り組みが行われています。



「松尾山の新しい  
貫首様決まる」

昨年十一月二十二日、鎮西本山・松尾山光勝寺（小城町）に於て、晋山式が執り行われました。平成五年十二月より第六十二世貫首として護山護持に精励されました田中日学猥下（光旭寺前住職）が体調不良の為退隠され、それに伴い第六十三世として平井日延猥下（泰教寺住職）が晋山されたものです。



詳細につきましては、次号にてお知らせいたします。



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工  
拝む心で尊い品を

**梅谷佛具店**

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9  
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)  
7番出入口・博多座裏

TEL 0120-39-0456

支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4  
-0373

TEL 092-806-7499

総合葬祭 有限会社 黄 城  
葬祭会館 こう 光 うん 雲 かく 閣

小城市三日月町大字久米2134-1

代表 (0952)-73-3938

TEL (0952)-73-2020